

ティーンは今

14歳 私のキャンバス

Free The Children Japan 子どもアンバサダー 刈屋彩乃

「将来、何になりたい？」

小学校で夢について聞かれることが苦手だった。自分が何になりたいのか、何をしたいのかわからないから。算数みたいに答えが出たらいいのにと考えたこともある。夢は、哲学的で無限の自由。だからこそ、頭の中にある真っ白なキャンバスに何色を塗ったらいいのかずっと考えた。考えれば考えるほど感情が絡まり、時間だけはすべての人に平等な資源であるように刻一刻とティーンは今も過ぎていくのを実感する。結局、中学2年生の私の頭のキャンバスは何色でもない。ただ、考えているうちに「夢、ができた。

左手に税込198円のメロンパン。さて、このメロンパンは高いだろうか？ 安いのだろうか？ 私の好きなおやつは198円。右手に持ったスマホに写る細身の女の子は一日働いて189円（70ルピー）。急にメロンパンに「様、を付けたくなるような気分だ。お金の価値の違いを目の当たりにした。義務教育を妨げる児童労働の現状。児童労働者数は約1億200万人以上いるとされている。私が児童労働を知ったのは小学校の5年生の時だ。附属高校の先輩が児童労働についてプレゼンを行ってくれてからフェアトレードを知り、児童労働について興味を持つようになった。児童労働についての学びはティーンの私に2つのことを教えてくれた。

1つ目は、子どもという言葉だ。子どもという言葉は時に、凶器になると知った。子どもが働く理由は生きるため。子どもは大人と同じ量働いたとしても、低賃金しか貰えない場合が多い。貧困の子どもにとって、借金を肩代わして強制労働を強いられることや人身売買、戦争、長時間労働などが、地域によっては伝統として当たり前とされている場合があると知った。そして、自分が今生きていること、学校に行く素晴らしさ、大切さを感じた。その一方で同じ年代だからこそ感じる「環境の差、に強い違和感を抱くようになった。

2つ目は、人の繋がり大切さだ。どこか、社会問題を他人事に捉えていた自分に友達がフリー・ザ・チルドレン・ジャパンのテイクアクションキャンプに誘ってくれた。たった3泊4日。でも、私にとっては多分将来を左右する出来事だったと思う。そこは、別世界だった。それぞれの思いが空を飛び交って私の真っ白のキャンバスは一気に虹色になった気がした。まだまだ知らなかった社会の問題について話を理解するのに精一杯だったのを覚えている。しかし、そんな私でも継続することで今では、FTCJの子どもアンバサダーとして活動をしている。未熟な私が新しい仲間に出会った。児童労働を知らなかったら、友達が誘ってくれなかったら、私の小さな思いはまた白で

塗り替えられていたかもしれない。

きっかけは身近な所にある。14歳だからなんだ。子どもだからなんだ。私は今、自分が本当にやりたいことを見つけることができた。本当にやりたいことを見つけるのに時間がかかったが、その分、私には目標に向かって一緒に頑張れる仲間ができた。また、世界を変えることができる子どもの力には大人の支えと大人への感謝が必要だと思う。私が勉強をすることができるのは学校の先生や塾の先生が教えてくださるから。学校に行ったり、ご飯を食べたりするのは親が働いてくれたお金でできていることだと思う。一方、子どものアクション、活動に対して「早い、はないと思う。私自身、中学2年生で活動することに対して「すごいね」と言われたことがある。まだまだ「すごいね」の言葉に値するとは言いえないが、自分の活動への確かな活力になっている。でも、私は子どもとしてではなく一人の人間として社会に向き合いたいだけであって、優先されたり、鼻厘される理由はないと思う。子どもが当たり前と感じている原点を見返して大人も子どもがそれぞれを尊重しあい、差別のない社会を築いていくことが大切である。みんなが社会を一日で変えることは難しいだろう。お店に行った時に、自らフェアトレード商品を買ってみたり、お金がかかるからだけではなく、環境問題に対するの自覚を持ってエコバックの持参をしたり、小さな積み重ねが世界を変えるのではない。

結局私の夢は何だ？と聞かれれば、今は何の戸惑いもなく「学校の先生、と答えるだろう。私は、人と関わることが好きだ。そしてもし小学校の先生になることができたなら、子どもたちに無限の可能性を見つけ

てもらいたい。真っ白なキャンバスでいいんだ、でも、もしきっかけを見つけられたら周りの人と色を分け合って新しい色を作ってほしいと子どもに伝えたいし、私も一緒に作りたいと思う。教育を受けられない子どもが世界には沢山いる。私は、児童労働のない、皆が学校に行ける社会を目指したい。一度しかない人生、辛いことがあっても悲しいことがあっても、後悔はしたくない。大人になっていくにつれてできることが増える一方で子どもの時にしかできないことがある。だからこそ、将来に向かって一瞬一瞬を大切にしたい。

最後まで読んでくださりありがとうございました。今の私は大人になった時どんなキャンバスになっているのか楽しみです。ところで皆さんのキャンバスは何色ですか？

FTCJについて

1995年に、当時12歳のカナダ人の少年によって貧困から子どもを解放することを目的に設立されたFree The Children（現WE）のパートナー団体として1999年から活動を開始。国際協力活動と並行し、日本の若者が社会問題に取り組むチエンジメーカーになれるよう、エンパワーしている。



当団体HPのQRコード

筆者プロフィール

2006年、東京で生まれる。小学校5年生でフェアトレードについてプレゼンが行われたことをきっかけに児童労働に興味を持つ。中学1年生で国際協力団体のNPO法人Free The Children Japanの春のテイクアクションキャンプに参加。現在は、Free The Children Japanの子どもアンバサダーや広げよう！子どもの権利条約キャンペーンのメンバーとして活動している。